

三つの川における3年間の環境変化について

山形県立上山明新館高等学校 科学・バイテク・食品加工部
遠藤拓光 ○佐藤颯星 浦山賢

1 はじめに

本校の科学・バイテク・食品加工部では、ここ数年にわたり、上山市金瓶地区にある須川、蔵王川、酢川を研究のフィールドとして水質調査やそこに生息している生き物についての調査研究を行っている。特に、蔵王川と酢川は、それぞれ強い酸性の水質を示す川として知られている。

今回は、私達が平成26年から平成28年にかけて撮影・調査した自然災害(水害)による川の地形変化を記録しまとめた。

2 調査方法

(1) 航空写真による全体像の比較

インターネットのGoogle Earth より、調査地点の航空写真を取得し、2013年のものと2016年のものを比較した。

(2) 現地の地形比較

調査地点でのほぼ同じ位置から撮影した写真を用いて比較を行った。

3 結果

2013年の7月に起きた大規模水害によって、それまでの地形をは大きく変化した様子を見て、衝撃を受け現地の変化を記録し始めたが、その後毎年のように起きる梅雨末期の大雨や台風による災害のたびに、どんどん地形が変化していくのを観察することができた。



4 今後の取り組みについて

このポスターを制作している時期にも、台風や大雨があり、さらに大きく地形が変化してしまっていた。その後、生息している生物についての調査を行ったが、はっきりとした変化は見られなかった。

酸性の河川と須川との合流地点が微妙に変わったので、酸性水が流れ込む位置が変わったので、淡水に生息している生物に対しての影響のほうが大きいと思われる。今後は、そちらにすむ生物についても調査を行いながら地形の変化と生物の関係についても調べていきたい。